

着装評価に関与するインナーウェアの色彩

○横山寿子 石原久代 (名古屋女大)

【目的】 シースルー、キャミソールドレスなどの流行に伴ってインナーも次々に開発、販売されている。また、色彩もカラー化の方向へ向かっているが、着用者は色彩についてインナーそのものに目を奪われがちで、外観への透過の状態を考えずに着用している場合が多い。しかし、実際の着装評価はアウターウェアで行われることが殆どであり、色彩の組み合わせによっては外観の審美性を損なう場合があると思われる。そこで本研究では女性の服装を取り上げ、アウターウェアとインナーウェアの色彩の関係について検討した。

【方法】 1) 女子大学生 181 名を被験者として実際に所持しているインナーウェア(スリップ、ブラジャー、ショーツ)の色彩をPCCS配色カード 175 色と照合させて調査し、更にアウターウェアの色彩が v2、v8、v18、p2、p8、p18、白、黒の8色において、素材が透けるものを着用するときと透けないものを着用するとき用いるインナーの色彩を調査した。

2) 肌色の認識度を検討するために、被験者 93 名の背中中の肌色を5カ所測色した。なお季節差をみるために被験者 20 名は1月と7月の2度背中を含め12カ所の測色を行った。

【結果および考察】 インナーウェアの所持状況において、スリップ、ブラジャー、ショーツともに白が最も多く、次いでスリップ、ブラジャーでは黒の所持率が高い。ブラジャー、ショーツではその他 p16・18 等の青系のうすい色が多く所持されている。ブラウス及びパンツの色彩とインナーウェアの色彩との関係をみると白以外は透ける場合と透けない場合のインナーウェアの色彩は異なり、透けない場合はほとんど白を、透ける場合はブラウスと同色をあげている。なお、黒は透ける、透けないに関わらず黒のインナーの着用が最も多かった。